

## 日本史(6) 古墳時代②「東アジア諸国との交渉／大陸文化の受容」

○今回のポイント

朝鮮半島と交流が盛んとなった倭国では、渡来人から様々な文物を受容した。  
日本でも漢字の使用が始まり、仏教などの信仰が始まった。

### 東アジア諸国との交渉

#### (1)分裂期の中国

- ・ 従来 …統一王朝が周辺諸民族に対して支配力を持つ。
- ・ 4世紀…三国時代を経て統一政権の晋が[1. 五胡] (匈奴・鮮卑・羯・氐・羌) の侵入を受け、南北分裂の[2. 南北朝時代]を迎える。  
→ 中国の支配力が弱まり、東アジアの諸地域は次々と国家形成を進める。

#### (2)朝鮮半島情勢

##### ①4世紀における新興国

###### (a)北部

- ・ [3. 高句麗]…前1世紀に建国。4世紀初め[4. 楽浪郡]を滅ぼし朝鮮半島北部を領有。

###### (b)南部

- ・ 馬韓 → [5. 百濟]…345年頃、馬韓50余国を統一して百濟が建国される。日本と親交を持つ。
- ・ 辰韓 → [6. 新羅]…356年に辰韓12国を統一して新羅が建国される。後に百濟・高句麗を滅ぼす。
- ・ 弁韓 → [7. 加耶]諸国…統一勢力が現れず小国家連合状態。鉄の有力な生産地。倭国(ヤマト政権)と密接な関係にあり『日本書紀』では「任那」と呼ばれ日本府が置かれていたとされる。

##### ②[8. 好太王碑]の碑文

- ・ 高句麗の都であった[9. 丸都](中国吉林省集安市)にある好太王(広開土王)の事績を記した石碑。
- ・ [10. 391]年倭国軍が朝鮮に進出。北上し高句麗と交戦。好太王によって撃破されたと記されている。
- ・ 高句麗との戦いの中から倭国は[11. 乘馬]の風習や騎馬の技術を学んだ。  
→5世紀になると日本列島の古墳にも馬具が副葬されるようになる。  
※倭国は百濟や加耶から技術を学び[12. 渡来人]がやってきて多様な技術や文化を日本に伝えた。  
※[13. 騎馬民族征服王朝説]…古墳前期と中期の文化的断層を軍事的性格に求め、大陸北方の騎馬民族の征服の結果と考える説。

#### (3)倭の五王

##### ①『宋書』倭国伝

- ・ 5世紀に倭の大王たち ([14. 讃・珍・濟・興・武]) が南朝の宋に朝貢する記事が登場する。  
・ 五王のうち濟は允恭天皇、興は安康天皇、武は雄略天皇であることがほぼ確定している。

##### ②倭の王たちの目的

- ・ [15. 朝鮮半島南部をめぐる外交、軍事上の立場を有利にするため]  
→宋の皇帝に朝貢して冊封されると、他の勢力に対して支配権を正統化できる

大陸文化の受容

(1)新技術…進んだ鉄器・[16. 須恵器]、機織り・金属工芸・土木など

(2)渡来人たち

渡来人	時代	本国	業績	始祖
17. 王仁	応神朝	百済	『18. 論語』『千字文』(識字・習字のテキスト)	西文氏の祖
19. 阿知使主	応神朝	?	文書記録を担当する[20. 史部]を管理した	東漢氏の祖
21. 弓月君	応神朝	百済	[22. 養蚕・機織り]を伝えた	秦氏の祖

(3)ヤマト政権における渡来系技術者集団

23. 韓鍛冶部	からかぬちべ	鍛冶・銅工・金作などに従事した渡来系の技術者集団。
24. 陶作部	すえつくりべ	陶器を製造した渡来系の技術者集団。
25. 錦織部	にしごりべ	錦を織ることを職とした渡来系の技術者集団。
26. 鞍作部	くらつくりべ	鞍などの馬具を作ることを職業とした渡来系の技術者集団。

(4)漢字の使用

①埼玉県[27. 稲荷山古墳]出土、稲荷山鉄剣の銘文

⇒漢字の音を借りて日本人の名や地名などを書きあらわす。

例) 獲加多支鹵 = [28. ワカタケル]

②[29. 史部](ふひとべ)

- ・漢字を用いてヤマト政権のさまざまな記録や出納、外交文書などの作成にあたった渡来人の技術者集団



ワカタケルという人名を漢字の音を借りて「獲加多支鹵」と書きあらわしている

(5)儒教・仏教の伝来と歴史書

①[30. 五経博士]…儒教を伝える。五経とは儒教の基本的な経典である詩経・書経・易経・春秋・礼記を修める学者のこと。段楊爾(だんように)の渡来から始まる。

②[31. 医・易・暦]などの学術も伝来

③仏教伝来…百済の聖(明)王が欽明天皇の時に仏像・経論を伝えたとされる。

- ・ [32. 538]年説…『上宮聖徳法王帝説』『元興寺縁起』などの説。

- ・ 『33. 上宮聖徳法王帝説』: 聖徳太子の伝記

- ・ 『34. 元興寺縁起』: 元興寺の起源と財産目録を記したもの。

- ・ [35. 552]年説…『日本書紀』などの説。

④歴史書…『古事記』、『日本書紀』のもとになった『帝紀』と『旧辞』がまとめられ始めたとされる。

- ・ 『36. 帝紀』: 大王の系譜を中心とする伝承

- ・ 『37. 旧辞』: 朝廷の伝承、説話